

感染症から生まれる差別・偏見を

どうなくしていくかを考える授業をおこないました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。

今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

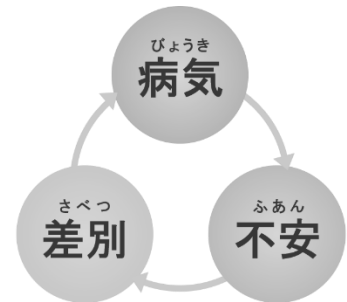
学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える授業を実施しました。

3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check 負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① ウイルスの感染をひろげないために…
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…
情報源のはっきりしないうわさはしない・広げないこと
- ③ 差別や偏見をひろげないために…
言い出しにくい空気をつくらないこと



授業を受けた生徒の声（新型コロナウイルス感染症の差別・偏見をなくすために、自分は何ができると思いますか。）

- ・いつ、誰がかかってもおかしくない。このことを常に心にとめて、「自分だったらどうか」ということも考える。不安な気持ちをもっている人に寄り添う。
- ・もし差別や偏見の話をしている人がいたら、あえて別の話題を出して、差別や偏見の話をしている人たちの心をちょっとでも逆向きにする。
- ・確証のない話やうわさを広めないようにする。常に自分自身が感染症対策をし、もし周りですんどそうな人がいたら「大丈夫？」と声をかける。
- ・たまっている不満・不安の矛先を人に向けない。相手の気持ちを考えて行動する。
- ・他の人を止めるのは難しいかもしれないが、「自分はしない」という思いを貫き、実行することならできると思う。そういう小さな行動でも誰かの助けになっているはず。
- ・差別を生まないためにも、「言わない」「広めない」を守ってみんなが笑顔で過ごせるようにしたい。

新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。

たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。



ご家庭でもご協力をお願いします。

新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしく願いいたします。